

■ 高齢者の肺炎球菌感染症とは

肺炎球菌性肺炎は、成人肺炎の25～40%を占め、特に高齢者での重篤化が問題になっています。小児・成人ともに、侵襲性感染症（化膿性髄膜炎、敗血症、肺炎など）を起こすことがあります。中耳炎、副鼻腔炎、気管支炎の起因菌となることもあります。脾摘患者、無脾症、リンパ腫などの患者では、重篤になることが知られています。

■ 予防接種の効果

肺炎球菌による肺炎の重症度と死亡のリスクを軽減させます。わが国でもインフルエンザワクチンとの同時期の接種で、肺炎リスクの高い高齢者においては肺炎予防効果と医療費抑制効果が示されています。

■ 予防接種の副反応

予防接種の接種部位が、赤みを帯びたり、熱を持ってはれたり、痛みがあることが5%以上認められます。筋肉痛、倦怠感、違和感、悪寒、頭痛、発熱が認められることもあります。重い副反応として、注射部位の壊死又は注射部位潰瘍の報告があります。

※重い副反応が定期の予防接種によるものと認定されたときは、予防接種法に基づく健康被害救済の給付対象となります。

■ 対象者

（1）65歳の者で、接種を希望する人

ご本人の接種希望の意思が確認できない場合、定期予防接種として受けることができません。（任意接種としては可能）

（2）60歳以上の人で、心臓、腎臓又は呼吸器の機能に自己の身の辺の日常生活活動が極度に制限される程度の障害を有する人及びヒト免疫不全ウイルスにより免疫の機能に日常生活がほとんど不可能な程度の障害を有する人

（身体障害者手帳1級の交付を受けている人、または、これらの機能に身体障害者手帳1級程度の障害があると医師が認めた人で、接種を希望する人）

■ 予防接種を受ける前に

（1）一般的注意

予防接種について、このお知らせを読んで、必要性や副反応についてよく理解しましょう。気にかかることや分からないことがあれば、予防接種を受ける前に担当の医師や看護師等に質問しましょう。十分に納得できない場合には、接種を受けないでください。

また、予診票は接種をする医師にとって、予防接種の可否を決める大切な情報です。接種を受けるご本人が責任を持って記入し、正しい情報を接種医に伝えてください。

(2) 予防接種を受けることができない人

- ① 接種当日、明らかな発熱のある人（一般的に体温が37.5℃以上の場合）
- ② 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな人
- ③ 接種液に含まれる成分によってアナフィラキシーショックを起こしたことが明らかな人。
※「アナフィラキシー」は、通常接種後約30分以内に起こる強いアレルギー反応のことで、じんましん、吐き気、顔が急にはれる、おう吐、息が苦しいなどの症状に続き、血圧が下がっていく激しい全身反応です。
- ④ これまでに、23価肺炎球菌莢膜ポリサッカライドワクチンを1回以上接種した人は、当該予防接種を定期接種として受けることはできません。

(3) 予防接種を受けるに際し、担当医師とよく相談しなくてはならない人

- ① 心臓病、じん臓病、肝臓病や血液、その他慢性の病気で治療を受けている人
- ② 予防接種を受けたときに、2日以内に発熱、発疹（ほっしん）、じんましんなどのアレルギーのような異常が見られた人
- ③ 今までにけいれんを起こしたことがある人
- ④ 今までに免疫不全の診断がされている人及び近親者に先天性免疫不全症の人がいる人
- ⑤ 接種しようとする接種液の成分に対してアレルギーを呈する恐れのある人

■ 予防接種を受けた後の一般的注意事項

- ① 予防接種を受けた後30分は、急な副反応が起こることがあります。医師（医療機関）とすぐに連絡が取れるようにしておきましょう。
- ② 副反応の多くは24時間以内に出現しますので、特にこの間は体調に注意しましょう。副反応が疑われる症状がでたら、速やかに医師の診察をうけてください。
- ③ 入浴は差し支えありませんが、注射した部位を強くこすることはやめましょう。
- ④ 接種当日は、いつも通りの生活をしてかまいませんが、激しい運動や大量の飲酒は避けましょう。

■ その他

予防接種を受けない場合

接種医の説明を十分聞いたうえで、ご本人が接種を希望しない場合や家族やかかりつけ医の協力を得ても、ご本人の意思の確認ができなかったために接種をしなかった場合、当日の体調などにより接種ができなかった場合などにおいては、その後肺炎球菌感染症にり患、あるいは、り患したことによる重症化、死亡が発生しても、担当した医師にその責任を求めることはできません。

【お問い合わせ】周南市健康づくり推進課（徳山保健センター内） 電話 0834-22-8553